

指導者養成研修



教科ごとに「国語力」 指導力を磨く

小中学生に考える力、表現する力をつける指導法を習得する「国語力向上指導者養成研修」(独立行政法人教員研修センター主催)が、8月24日から3日間、つくば市の教員研修センターで開かれ、東日本22都道県の校長や指導主事ら教諭約110人が参加、教科ごとに「国語力」を養う方法を考えた。

研修の中核となる指導計画を作る演習では、社会、理科、算数、国語などの教科別のほか、学校全体などの各担当に分かれた教諭が5、6人のチームになり、丸1日かけて思考力や判断力、表現力を育てる指導案作りを考えた。

総合学習チーム=写真=は、「わが街の宝探し」をテーマに、東京都福生市の子どもたちが新聞などさまざまな資料を使って調べ、街の自然や観光スポットなど探し出した項目を自分たちで順位付け、1枚の「お宝マップ」を作る指導案を作成。中学国語チームの一つは、「投書をしよう」をテーマに据え、中学2年生が新聞の投書欄を利用し、根拠が書けているかなどのポイントを確認しながら授業が展開する指導案作りを進めた。各チームは最終的に模造紙やパソコンで指導案を完成させ、発表した。

福岡市では、7月27日から3日間かけ、西日本23府県の小中学校校長や指導主事ら約130人が参加し、同じテーマで研修が行われた。

(住吉由佳、写真も)